

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394500041		
法人名	社会福祉法人かなえ福祉会		
事業所名	グループホーム すないの家 尾張旭 ききょう		
所在地	尾張旭市柏井町弥栄256-1		
自己評価作成日	令和 6年 3月 22日	評価結果市町村受理日	令和6年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=rue&JigyosyoCd=2394500041-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和6年4月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

誕生日会や季節行事に沿ったレクリエーションに力を入れています。誕生日会ではご本人のしたい事や食べたい物などを聞いて出来る限り実現できるように努めています。コロナ禍でできなかった外出に関しても規制緩和に伴い実行できるようになった為、地域の作品展まで足を出向いたり、喫茶店に行ったりしています。季節行事レクと致しましては夏には花火大会・冬にはクリスマス会を行い、季節を感じて頂けるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ※コロナ禍の為、対応不可	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人と事業所それぞれに理念が掲げられている。 法人理念は事務所で、事業所理念は各自の社員証に挟んでおり、理念に基づいて職員一人ひとりが目標設定をしており、随時確認できるようになっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの規制緩和に伴い、以前まで行っていた保育園との交流を再開している。 また短期大学の実習生を定期的に受け入れたりして外部との交流を図り始めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	必要があれば施設にていつでも相談ができるように体制を作っている。 また入居希望以外の方でも話を聞く事で施設での生活に対して安心感を持たせられるように相談援助を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	昨年までは書面開催のみであったが、コロナの規制緩和に伴い、再開できるようになった。 会議では施設での取り組み内容を説明したり、質疑応答の時間を設け、家族や外部の声も拾えるように心掛けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	不明点などは連絡をしたり直接市役所に向いて確認をしている。また市役所からも案内事があれば随時メールにて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設全体で入所前にご家族に入所時リスク説明をする際に身体拘束をしない事も説明し了承頂いている。また定期的に委員会や勉強会を行う事により、身体拘束の重要性を各部署に発信し共有をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束同様、委員会や勉強会を定期的に行い、重要性を確認している。またユニットで困っている事例があれば施設全体で話す機会を設け、解決に向けて話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は成年後見制度を利用されている方はいない。市役所より勉強会などの案内がある為、可能な限り参加をするようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	改定時は都度同意書を作成し確認して頂き署名を頂いている。また不明な点があれば電話や面会時に対応できるように体制づくりをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話連絡や面会時に日頃の様子をお伝えすることでその後に要望や確認事を話やすくできるように環境作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	施設長や管理者がユニットリーダー会議で代表してユニットリーダーに困り事を聞く事はもちろん、日ごろからユニットを廻る際に他職員にも意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長が都度職員の声を聞く事でお互いが話しやすい環境が作れるようにしている。また提案事があればすぐに実践できるように日頃から声を掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍からの行っているオンラインの研修や外部研修に関しても少しずつ再開し、職員の知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	特別養護老人ホームや短期入所生活介護が併設してある為、外部の介護支援専門員や地域包括支援との交流があり、そこで情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	話を積極的に聞きご本人から職員へ気軽に話掛けができるような関係づくりに努めている。職員は日常の些細な事でもつぶやきとして拾い上げ、他職員へ共有するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	限られた面会時間の中で職員から話し掛ける事により話しやすい雰囲気を作るように心掛けている。また中々面会に来られない方に関しては電話連絡をしたりし、要望等を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	支援をしていく中で何が一番かの優先順位を見極め、職員間で共有し実践するように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活をしていく中でご本人が出来る事は行って頂いたり家事全般を一緒に行う事で暮らしを共にする者として関係を築いている。またご本人と他者との懸け橋になり、お互いに一緒に暮らす者として関係を築けるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話連絡をする際に日頃の様子を伝えたり、家族との時間を大切にして頂くようにしている。またその時の問題について一緒に考えたり、話をする事を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人に会えるように面会ができる体制になっている。本人より会いたい方がいるようであればその方に連絡を取りあえるように援助している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの性格や相性を把握し、利用者と一緒に席を決めている。また自由に好きな方と好きな時に話ができるように職員が間に入り円滑にコミュニケーションが取れる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も相談事があればいつでも施設に来院していただいたり連絡を頂けるように援助している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向等は日々のケアの中から把握するように努めている。個々の状況については本人と話ができるタイミングを見つけ、思いを聞くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメント時にご本人やご家族から話を聞くようにしている。サービスの利用についてはケアマネジャーや利用サービス事業所から情報を貰う事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のケアの記録などで職員が入居者一人ひとりの身体状況等の情報を共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者は各部署に聞き取りを行い、毎月評価表に記入し、ケアプランの見直しに反映されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録や連絡帳の記入に加え、申し送りも含めて職員全員で入居者一人ひとりの状態に合わせた援助ができる様にするため役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	これまでのサービスに捉われない今後の入居者の変化を見直し、可能性を提案しながらできる事を模索している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍ではできなかった地域との交流を再開している。保育園児との交流から始まり、今後は様々なボランティアの受け入れを行っていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療専門の医療機関と連携をしており、夜間もオンコールで指示を仰ぐことができる。訪問歯科や訪問マッサージ、眼科など入居者の希望により往診を受けられる体制になっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的な訪問看護の利用に加え、併設特養の看護師が入居者の体調管理をしている。必要であれば病院受診、救急搬送に繋げられるように連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはこまめに家族や入院先のケースワーカーと連絡を取り合い、経過を把握し、退院時のスムーズな受け入れに繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合に家族との話し合いを行い、今後の意向を伺っている。併設特養へ転居する場合もあり、看取り対応へと移行する場合もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルを作成し、職員全員が周知をしている。定期的な救急対応の研修もやっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練の実施を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。当施設が地域の避難所となっている為、地域との連携も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	基本的な事ではあるが、声掛けする際は目線を合わせて対応している。トイレ誘導などのプライバシーに配慮を心掛ける場面では他者にわからないように小声で話し掛け誘導を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を話せるように日頃から関係づくりに努めている。また職員は相談に耳を傾けられるようにし、自己決定ができるように導くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者一人ひとりのライフスタイルを大切に、その方に合わせたペースで支援ができるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	男性入居者の髭剃りの際はシェーバーを渡し、整えてもらえるように促し、そり残しを職員がお手伝いしている。 女性入居者にはレクリエーションの一環でマニキュアを塗っていただきおしゃれを楽しむ行事を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日皆と食事準備をする事で共同で生活しているという実感を感じて頂いている。 また一人ひとりの特徴を活かし、得意な事を把握し準備をお願いするように声を掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分摂取量は気に掛けて対応している。 摂取量が少ない方に関してはご家族と相談し、嗜好品を購入する等の検討も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりの能力を理解し、促しであったり介入をしている。 週に1回訪問歯科衛生士による口腔ケアも実施して頂いている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	羞恥心に配慮しながら自立した排泄が行えるように支援している。 また排泄パターンを把握する事により、気に掛けて対応できるようにする事が課題である。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便確認を行い、排便が見られない方は水分を促したり、時には一緒に歩行する事で腸の活性化を促すように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	同性職員を希望される方にはそのようにしている。またどうしても拒まれる方もいる為、日時を替えたり、職員を替えたりして対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中に様々な活動をしていただく事により夜間は安眠できるように努めている。 また状況に応じて日中も含め職員から声を掛けて安心感を得る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	複数の服薬内容を把握する必要がある為、すべて把握しきれていないのが現状である。 薬剤情報が見れる所にある為、各自確認していく必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナ禍で外出が中々できていなかったが、今年度より規制が緩和され、外出支援もできるようになった。他にも施設でのイベント事や誕生日などに楽しみ時間を設けてもらうようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍が緩和された影響で近くの美術部会展や喫茶店に行けるようになった。 またご家族や知人と一緒に外出できるように気兼ねなく声も掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ごく数名の方がお金を所持しているものの、使用するまではいっていない。施設では移動販売業者も見える為、お金を使用できるように支援するようにする事が課題ではある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持されている方がおり、ご家族から着信がある為、都度一緒に携帯電話の確認をし、通話やメールができる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者一人ひとりの体調を気遣いながら温度調整や換気等行っている。 また季節感を感じて頂けるようにレクリエーションの一環として季節の物の創作作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った方通しが一緒になれる事はもちろんであるが、一人の時間を作り居室で過ごして頂くように援助もしている。本人の過ごしやすいように日頃から気配りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた家具などを持参頂けるようにご家族に声を掛けている。配置に関しても入居者・ご家族と相談して配置を行うように心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの能力を観察し、「できる事」「わかる事」を見つけて個別ケアに努めている。		